

報告



第36回 技術士全国大会(仙台)

技術士（建設／総合技術監理部門） 大熊 正 信

1. 杜の都・仙台

「仙台」東北地方最大の政治経済の中心地である仙台は、どなたもご存じかと思います。ただ、私の先祖は伊達藩（宮城県）や最上藩（山形県）と関係が深かったことから、仙台を訪れるとちょっと違った感慨を持って街並みを散策します。

世はまさに「歴女」時代。ここでチョット仙台の歴史と北海道の関係をご紹介します。

「仙台」とは、もともと「千代」と書かれていまし



仙台市街遠景



伊達正宗公騎馬像（青葉城址）

たが、伊達政宗公によって1601年に「仙台」と改名されました。仙台藩は62万石を擁して現在の岩手南部から福島北部までを統治していましたが、明治政府によって28万石まで減封され、職を失った志士達は新天地を求めて北海道開拓に従事したとされています。現在の札幌市白石区は仙台藩白石領からの移住者が開墾した地で、その他にも手稲区発寒など各地に見られます。

また、「杜の都」の由来は、城下町形成の折に伊達政宗によって防風林、防雪林、防火林対策として植林事業が行われたことによります。この「杜」は人工林を意味し、現在では仙台市内を代表する見事な街路樹となっています。防火林とは少し聞き慣れない言葉ですが、冬に蔵王からの吹き下ろしで乾燥する空気を和らげる意味がありました。

「杜」の字は私の年代では北杜夫を連想します。この北杜夫の父・斎藤茂吉は仙台藩と最上藩の間に位置する上山藩の出で、交通の要衝であったため両藩の戦いが幾度と無く繰り返されたところでした。ちなみに、昨年NHK大河ドラマになった直江兼続は軍勢2万5千を擁したにもかかわらず、わずか千人の兵士で上山城を守る最上藩の家臣に破れる醜態を演じたことで有名です。

2. 仙台散策

仙台市内には「るーぶる仙台」という循環バスが走っており、市内の主要な名所旧跡を仙台駅を発着点に約1時間で循環しています。

仙台駅を出発してすぐに東北随一の繁華街・青葉通一番町を通り仙台生まれで「荒城の月」でも有名な土井晩翠が晩年を過ごした晩翠草堂に着きます。

まもなく仙台市内を流れる広瀬川を渡って伊達政

宗公の廟所である瑞鳳殿や仙台博物館を通して青葉城に至ります。ここまで僅か 20 分あまり。仙台の主だったところを見られた気がします。

一級水系名取川の支川である広瀬川は流域面積 411 km² と、豊平川（同 902 km²）のおよそ半分で、札幌市が豊平川の扇状地に拓かれたのに対して、仙台市は広瀬川の河岸段丘上に発展した都市です。

その後、植物園や美術館を通して我が国最初の水力発電所である三居沢発電所に着きます。



広瀬川（大橋より下流を望む）



瑞鳳殿（伊達 3 代廟所）



三居沢発電所

ここは 1888 年に宮城紡績工場の自家発電として開所されましたが、一般営業はこれから遅れること 6 年を要し、その間に京都蹴上発電所が我が国最初の営業発電を開始したため、営業発電としては全国 6 番目となっています。

循環バスはその後、国宝・大崎八幡宮に着きます。ここは伊達政宗公によって造営された鎮守で、本殿は青葉城を向いているとされています。

この後、桜並木やケヤキ並木の美しい定禅寺通や広瀬通を経て仙台駅に帰ります。



国宝・大崎八幡宮



中央分離帯のケヤキ並木

この 20 分間隔 1 時間程度で運行され 10 箇所以上を回る利便性の高さが受けて、乗車率も高くなっているようです。私も乗車してみましたが、地域の方の乗車の多さに驚きました。

札幌にも市内循環バスとして「Sapporo Walk」や「さっぽろ散策バス」「ぶらりサッポロ観光バス」がありますが、いずれも乗車率はそう高くないようです。なぜなのか。街の大きさもあるのではないで

しょうか。仙台ではこれ1本でほぼ市内の名所旧跡を全て回れますが、札幌では同じ1時間で大倉山ジャンプ台や円山動物園など、数カ所を回るだけです。また、通常の路線バスとしても利用できるのですが、一般市民への知名度も低いような気がします。したがって運行本数や期間も限定的になってしまうのではないのでしょうか。このことは更に検討を進めたいと思います。

全国各地を歩いてみると、城址公園に県庁や市役所がある地方が多く見られます。土地の確保という問題もあったのですが、城の場所を定めた時、その将はその地で最も戦略的にも水害などの災害も含めた地形的にも優れた場所を定めたのではないのでしょうか。今更ながら先見の明に感心します。

仙台の名物と言えば牛タンがまず挙げられます。私も仙台に着くなりまずは舌鼓を打ちに行きましたが、仙台の方は昼食時に札幌ラーメンのように牛タン定食を食べに行くようで、昼時はどの店も行列ができるほどでした。また、仙台は米処でもあることから銘酒も多くあります。私は浦霞が美味しかったのですが、その他にも一の蔵や澤乃泉など、おいしいお酒を堪能できました。

いろいろ仙台を見て回りましたが、今回も新しい発見のあった旅でした。

3. 全国大会

(1) 大会の概要

全国大会への参加報告ですので、多少はそのことに触れておかなければ、この報告を会社の上司が見たら「あいつは何をしにいったのか?」と、おしかりを受けそうなので、ここで紋切り型の大会報告を



大会会場（仙台国際センター）

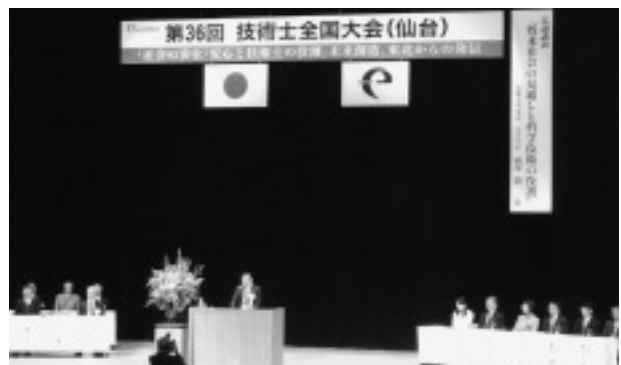
しておきます。

今年の全国大会は大会日程が従来と異なり、記念式典を第1日に、分科会を第2日に持ってきて、1泊2日の短期間での参加が可能なように工夫されていました。

月 日	名 称	内 容
10月15日	記念式典	
	基調講演	西沢潤一 首都大学東京 名誉学長 京名誉学長
	交流パーティー	
10月16日	分科会	5分科会
	総合シンポジウム	「社会の安全安心と技術士の役割」

(2) 全国大会・記念式典

文部科学大臣、宮城県知事、仙台市長他をお招きして記念式典が開催されました。来賓各氏から祝辞を頂戴しましたが、その中で奥山仙台市長の祝辞では技術士の役割について、防災や社会貢献、人材育成を含めたまちづくりや産業発展を技術的な側面で捉えるという重要な役割を担っているというお言葉をいただき、来賓者の中でただ一人原稿を読まずに話され、感銘を受けました。



記念式典

(3) 基調講演

首都大学東京名誉学長（元東北大学総長）の西沢潤一様の基調講演がありました。私はお名前だけは存じていましたが高齢（83歳）でもありどのような方かなと思いきや、まだまだ矍鑠としていて、逆に私たち聴講者が叱咤激励されてしまいました。お話の内容は教育現場に永くおられたせい大学教育の今日の教育に欠けているもののお話をされ、学問の面白さをもっと知ってほしいと結ばれました。

また、ご自身の研究成果から、今は常識となっている高圧直流による送電技術も当時は新しい考え方で、その成果がなかなか企業に理解してもらえなかったことをエピソードを交えてお話しされ、受け入れる側の新しい技術への理解と許容力が必要と言われました。私も一技術者として肝に銘じるものがありました。



西沢潤一氏による基調講演

(4) 交流パーティー

会場を仙台国際センターレセプションホールに移して交流パーティーが開催されました。

交流パーティーでは大会関係者や来賓の祝辞の後、全国大会でよりお会いできない方々と、地域の情報交換や旧友を温めることができ、東北支部に用意していただいた地酒や料理に舌鼓を打ちました。

アトラクションとして地元で活躍される三味線の柴田3兄妹や子供たちの舞が披露され、来年の開催支部である中部支部に滞りなく大会旗が引き継がれました。



交流パーティー



柴田3兄妹による三味線（アトラクション）



子供の舞（アトラクション）



仙台銘酒

地酒コーナーでは北海道支部より参加した面々が競って聞き酒を行い、これがうまいとかマズイとか、大変和やかな時間を過ごしました。

二次会は北海道支部事務局長の会社の仙台支店（藤井様他）のお骨折りで、北海道支部をはじめ、東北支部、北陸支部の方々と、北東3支部つながりの情報交換会を開催しました。

(5) 分科会

大会第2日目に5つの分科会に別れて、それぞれのテーマのもの分科会が開催されました。

今回は分科会開催前に全国からテーマに沿った論文を募集し、秀逸な筆者をパネリストとして開催する初めての試みでしたが、北海道支部からも第1分科会に桑原技術士が、第2分科会に出口技術士、第3分科会に高宮技術士がそれぞれ登壇され、活発な議論が展開されました。

分科会テーマ

第1分科会	食の安定的な確保と安全な供給
第2分科会	資源・エネルギーの有効利用と循環型社会
第3分科会	地震災害に備え地域社会の安全に貢献する
第4分科会	技術のマネジメント
第5分科会	中立公正の堅持と自立的な規範

4. テクニカルツアー

1泊2日コースは骨寺村荘園遺跡散策後、矢櫃温泉に泊まり、翌朝、日帰りコースと合流してH20岩手・宮城内陸地震で大きな被害を受けた国道342号祭時大橋にて、岩手県一関総合支局土木部職員の方の説明を受けました。その後、中尊寺金色堂讃衡蔵見学と法話を受け、仙台に戻りました。

骨寺村荘園は中尊寺の荘園として営まれたところで、中世（14世紀頃）の農村の基本的な土地利用形態と居住形態を彷彿とさせる歴史ロマンを感じられるところでした。現地までにはほとんど案内板らしきものも少なく、知る人ぞ知るといった感じでした。



骨寺村荘園遺跡と農村景観

宿泊地のホテルでは、全国から参加された技術士の自己紹介の後、平泉達谷地区に古くから伝わる窟毘沙門堂奉納神楽が披露されました。この神楽は戦後の混乱によって活動が停止していましたが、昭和46年に地区の伝統を絶やすまいとして立ち上がった

た青年たちによって復刻保存されたもので、当地に嫁いだイギリス人女性がその中心として活動され現在に至っているとお聞きしました。私たちは身近にある「歴史」をついつい疎んじがちになる面がありますが、切り口を換えてみるとその価値観を改めて認識させられるものも多いのかも知れません。



復活した窟毘沙門神楽

今回の研修のメインは祭時大橋落橋の現状視察で、地震によって地盤が隆起し、橋台・橋脚の位置を变形させたことによって、上部工が落下した様子が見て取れ、地球のエネルギーの大きさを改めて思い知ることができました。なお、私は橋梁及び地盤については詳しくないので、詳細をお知りになりたい方は、同行した植村事務局次長に直接お聞き頂ければ幸いです。なお、被災後の補修が終了した箇所が未だに約半数にとどまっていることのほか、厳美溪をはじめ県下有数の温泉地区も被災し、未だに被災前の宿泊者数には戻っていないことが報告され、ソフト面でのフォローアップの重要性を知りました。



祭時大橋落橋状況



道路被災状況（隆起）

5. おわりに

「はじめに」が無いのに「おわりに」があって、文体をなしていませんが、書いておきたいことがありましたので、ご容赦ください。

全国大会の意義とは何か。私も第22回札幌大会（H7）開催に携わったときに議論になったことを覚えていますが、開催支部は常にこれを命題のように考えているのではないのでしょうか。

今回の東北支部（仙台）大会でも、従来にないスケジュールで開催され、その苦勞が感じられましたが、私も10年以上にわたって全国大会に参加させて頂き、毎回同じようにこのことを考えることがあります。結構堅く考える方も多いのですが、私は楽天的かつ肯定的に次のように考えています。

皆さんは技術士とし日本技術士会をはじめ、いろいろな学協会に参加されていることと思いますが、技術士全国大会の空気はそういった学会等とは異なって、何となく和氣藹々の一種独特の雰囲気があります。論文発表などの学術的な大会はそちらにお任せして、技術士全国大会は情報交換の場として、それもまた良しとすべきではないかと思います。

全国大会で採用される時のテーマは時宣を得たもので、それに沿って開催される分科会では、自分の好む分野を選択することができ、現在社会の流れや課題を感じることができます。また、交流パーティーなどでは、全国大会でより逢うことのできない旧知の方々と、地域的情勢や情報を交換することができ、私にとっては貴重な情報源となっています。

要は全国大会に参加される方々がそこに何を求めているか、何を見いだすことができるか、価値観の

問題もあるのではないのでしょうか。

開催支部としてはできる限りの情報発信ができるよう準備を進めるわけですから、そこから得られるものがあれば、全国大会を開催した意義も参加した意味も出てくるものでしょうし、論文発表が中心の大会をハードな大会と位置づけるなら、技術士全国大会のようなソフトな大会も、これもまた良しと感じています。

ちなみに、大会最終日（16日）から仙台の地で初めて開催されるプロ野球パ・リーグのクライマックスシリーズ第1ステージが始まり、楽天が見事ソフトバンクを破って札幌まで来ました。（北海道支部はどちらが来ても良かったのですが）折しもサッカーJ2のベガルタ仙台もJ1昇格が決まり、仙台の街は祝賀ムードに包まれていました。北海道支部から参加した技術士にも熱狂的なファンがおり、この機を利用してどのようにチケットを入手したのかネット裏観戦に駆けつけた方もおりましたが、今年は日ハムの優勝とコンサドーレのJ1昇格を祈って、なんだか変ですが全国大会報告とします。



次回開催地（中部支部）パンフレット